

もとのりなが
本居宣長、再び萩原で宿泊

明和九年（一七七二）三月十二日（旧曆）、本居宣長ら一行六名は、畝傍山周辺や大神神社などを巡り、金屋、初瀬を経て、萩原へ戻ってきました。

『菅笠日記』には、「今夜もまた、萩原の里の、前に泊まった家に宿を取る。」とあります。往路の三月六日に泊まった同じ旅籠に宿を取りました。宿のサービスが良かったのか、主人の愛想が良かったのか、同じ旅籠に宿泊しました。『菅笠日記』には、旅籠名が書かれていませので、萩原のどこの旅籠だったのかは、わかっていません。

この萩原から松坂へ戻るには、二通りの道があります。ひとつは「伊勢本街道」、現在の曾爾村・御杖村などを通る道です。もうひとつは、「伊勢表街道（あお越道）」、現在の名張市、伊賀市などを通る道です。宣長ら一行は、この道を通って大和へやってきました。

一行は、萩原から松坂への帰りは、道を変えて、まだ見たことのない「赤羽根（あかばね）越え」といわれている道を帰ろうと相談しました。供の一人は、「ああおそろしい。その道というのは、どこも険しい山ばかりを、

幾重ともなく越えます中にも、飼坂（かいさか）、櫃坂（ひつさか）などという世にもひどい坂がいくつもあります。明日は雨も降りそうな様子であるのに、いつそう道が悪くなりましょう。みなさんは、どうして簡単に越えられることができるでしょうか。全く無理であると思います。」と言います。

また、ある一人は、「いや、それほど恐ろしい道であるなら、全く行く人もないだろうが、他の人もみな行くよ。だから、大したこともないでしょう。足さえあれば、必ず越えることができます。でしょう。」と、全く恐れる様子もありません。

相談の結果、一行は、まだ通ったことのない「赤羽根（赤埴）越え」ともいわれている「伊勢本街道」を通って松坂へ帰ることとしました。

翌朝、一行は、まだ夜が明けないうちに萩原を立ちました。雨がしとしと降っています。が、街道の分岐点・札の辻（ふだのつじ）から、まだ見たことのない「伊勢本街道」を歩きはじめました。



「札の辻」の道標（文政11年/1828）

文・柳澤一宏（文化財課）



女性に対する
暴力をなくそう！

テレビ等で、女性が配偶者などからの暴力によって命を落としたり、身体に傷を負うなどの報道を見ると心が痛みます。

国連では、女性に対する暴力を根絶するため、11月25日を「女性に対する暴力撤廃国際日」と定め、日本では、毎年11月12日から25日までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」の期間とし、全国で様々な取組が行われています。

内閣府の平成26年度の「男女間における暴力に関する調査」では、女性の4人に1人が「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの被害を受け、10人に1人は、何度も被害を受けており、深刻な状況です。

配偶者等からの暴力（DV）、セクシャルハラスメント、ストーカー行為など女性に対する暴力は決してあつてはならず、男女共同参画社会を実現していく上で、克服すべき重要な課題です。調査によると「自分さえ我慢すればいい」「相談しても無駄」



と自ら抱え込んでしまい、次第に暴力がエスカレートし、被害が深刻になるケースもあります。宇陀市では、夫や恋人等（事実婚および元配偶者も含む）からの暴力で悩まれている方の相談『DV相談』（毎月第4水曜日午後1時～4時【広報27ページ】）を専門の女性相談員により受けています。（秘密厳守）

相手との関係で「つらい」と感じた時は悩まず相談ください。もし、暴力を受けている人に気づいたり、相談を受けたりしたときは、相談窓口にご相談するよう助言してあげてください。

県中央子ども家庭相談センター
【配偶者暴力相談支援センター】
☎0742・22・4083
人権推進課
☎82・2147/IP ☎88・9077

